



千曲川橋梁をゆく上田電鉄別所線。橋の下を流れるのは千曲川。鉄橋を渡ると信州の鎌倉と呼ばれる塩田平が広がる。

# 長野県 上田電鉄 別所線

文・渋谷申博  
text by Nobuhiro SHIBUYA



連載 第16回  
民営鉄道の  
起源を訪ねて  
鉄路は何を目指したか

## 温泉とレイラインと 名作のロケ地と

令和元（2019）年10月13日、台風による増水で別所線の千曲川橋梁の一部が崩落した。これにより別所線は上田〜城下間が不通となってしまった。

別所線がどうなるのかと不安に思っていた私は、橋梁が復旧し令和3（2021）年3月28日に運転再開したとの報道を聞き安堵したのを覚えている。橋梁を渡る別所線の車両を実際に目にする事ができたのは、復旧から1年以上後のことになってしまったのだが。今回の取材は、さらにそれ以来の別所線の旅となった。

上田電鉄の起源は、大正9（1920）年1月に上田温泉軌道株式会社が設立されたことにさかのぼる。商号から明らかのように、別所温泉や田沢温泉・沓掛温泉などへの入湯客の輸送を主な目的としていた。11月に社号を上田温泉電軌株式会社に変更、翌年6月に川西線の上田原駅〜信濃別所駅（現・別所温泉駅）、青木線の三好町駅（現・城下駅）〜青木駅で開業した。この川西線がのちの別所線である。

昭和18（1943）年には丸子鉄道株式会社と合併し、社号を上田丸子電鉄株式会社とした。これにより4路線をもつ鉄道会社となった。その後、さまざまな事情から路線は減少し、昭和47年には別所線のみとなった。平成17（2005）年には上田交通株式会社（昭和44年に上田丸子電鉄株式

